

LIVE TRACKING24 を使用してツリーラン救助 安全普及事業部

世界の大会で徐々に浸透し始めているライブトラッキング、JPA の競技会においても使用すべく多くの選手のみなさまに試してもらっています。競技会ではレース状況の把握、選手はフライト後のレース解析などに役立てています。また、このライブトラッキングはパイロットの安全管理にも有効です。今回、実際にライブトラッキングによって困難な救助が迅速に行われましたので紹介させていただきます。

10:33 (ライブトラッキングで確認)

1名のパイロットが濃れを回復できず、パラシュート開傘。エリアから見える稜線の裏に消えたため、ツリーラン現場は目視できず。空中のパイロットが無線で呼びかけるが正確な GPS 座標を得ることができない。また、携帯電話は圏外のため、通信はできず。早急に位置情報を確定するために、スタッフがクラブハウスでライブトラッキングのホームページを立ち上げる。すぐにパイロットのユーザーネームから位置情報を得ることに成功。現場を目撃したパイロットの情報と照らしあわしても、この情報に間違いはなさそうなので、この位置情報を GPS に入力して現場に向かうことを決める。



11:00

現場は、エリアと通信が途絶える可能性がある、さらにアプローチが長い（高度差 400m ほどを登り、その後高度差 200m ほどを下る）、ルートは急勾配、足場がもろい、部分的に残っている雪が凍っている・とうこともありスタッフ 3 名（全員レスキューレベル 3 所持者）と現場を目撃していたパイロット 1 名（救助経験あり）の 4 名で現場に向かうことに。

12:45 (GPS の履歴で確認)

現場到着。ライブトラッキングの位置情報にはほとんど誤差なし。

パイロットはすでに自己脱出しており地上で待機。スタッフ 2 名が木に登り、パラグライダー、パラシュートを回収。

13:20 (GPS の履歴で確認)

回収およびパッキング完了。下山開始。

14:40 (GPS の履歴で確認)

下山完了

(総括)

・パイロットがライブトラッキングを使用していたおかげで、位置情報を正確に得ることができた。万が一、パイロットと通信ができなくてもほぼ誤差のない位置情報を入手できることがわかった。

・ライブトラッキングを利用した救助は初めてだが、その位置情報を GPS に入力することで、ほぼ誤差なく現場に到着することができた。

・今後、ライブトラッキングの使用方法が確立すれば、非常に心強い。すでに、今シーズンの JPA 競技会では GPS 付き無線機とライブトラッキングで選手の安全に最大限配慮するが決定している。

・もちろん、その位置情報を正確に使える地図および GPS、そしてそれを使いこなせるレスキューレベル所持者を中心にチームを編成できたことが救助を円滑に完了させた大きな要因。JPA のパラグライダーレスキューに対する取り組みを最大限に活かすことができた。

・ルート探し、現場を往復できる体力、登山能力、グライダーの回収技術・・・どれがひとつ欠けても成しえなかったものであった。場合によってはビバーク、滑落、機材放置など様々なことが考えられた。

JPA では今後ともパラグライダーレスキューの取り組みを継続的に行っていく必要があることを痛感した。

以上。

JPA 安全普及事業部